



浜松市博物館情報



Hamamatsu City History Museum News

2024.4.15
No.361

力士天龍二郎と大日本関西角力協会

すもう

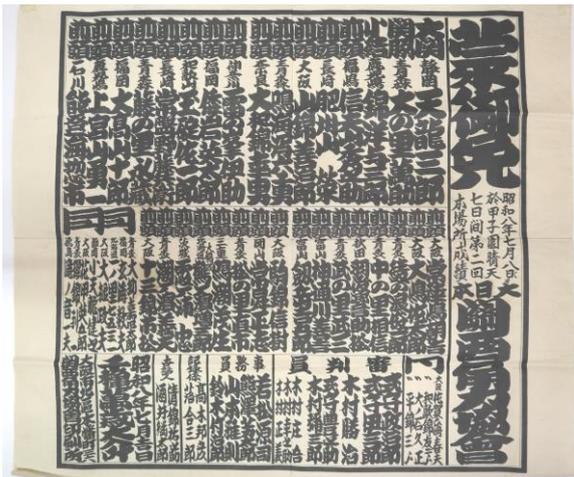
現在、大相撲では静岡県郷土力士である熱海富士（熱海市出身）が注目されていますが、大正期から昭和初期にかけて活躍した浜松出身の力士天龍二郎をご存知でしょうか。

天龍二郎（本名和久田二郎）は、明治三十六年（一九〇三）に浜名郡神久呂村大久保（現浜松市中央区大久保町）で生まれました。子どもの頃から体格に優れ、出羽ノ海部屋の方から相撲界入りの誘いを受けるほどでした。十六歳で出羽ノ海部屋に入門し、昭和五年（一九三〇）に関脇に昇進しました。しかし、力士の収入の低さや大日本相撲協会（現日本相撲協会）の不透明な経営などの問題を憂いていたことから、昭和七年（一九三二）、協会へ改革を要求する事件（春秋園事件）を起こしました。要求は受け入れられず、天龍二郎は協会を脱退し、昭和八年（一九三三）に大日本関西角力協会を設立して、大阪を拠点に独自の相撲興行を行いました。

さて、当館が所蔵する天龍二郎関係の資料として「大日本関西角力協会第二回本場所番付表」と「相撲興行ちらし」を紹介します。

番付表は、昭和八年七月八日から十五日までの間、甲子園で行われた第二回本場所の結果をもとに発表されたものです。天龍二郎を筆頭に四十四名の力士が載っています。上段

の「第一組」、中段のうち文字の大きい十六人の「第二組」、小さい八人の「第三組」、下段の右側四人の「第四組」に分けられ、このグループごとにトーナメント戦が毎日組まれました。日々のトーナメント優勝者の他、勝ち星一つを五点として期間中を通じての最高得点者を最優勝者として表彰しました。なお、第二回本場所の最優勝者は天龍二郎でした。



第二回本場所番付表

相撲興行ちらしは、気賀町喜賀座前（現浜松市浜名区細江町気賀）での興行のもので、勸進元（興行主）や広告文の他、番付表の一部が掲載されています。時期は三月五日とあ

って、年が書かれていません。ただ、昭和十一年（一九三五）に引退した力士が取締として記載されていること、力士の序列が昭和十一年（一九三六）一月の第七回本場所番付表とほぼ一致すること、昭和十二年（一九三七）の第九回本場所で改名した力士が旧名で載っていることから、昭和十一年に催されたものと推定されます。



相撲興行ちらし

大日本関西角力協会は、力士が元の協会に復帰するなどして人気は落ち、昭和十二年十二月に解散し、同時に天龍二郎も力士を引退しました。その後、天龍二郎は相撲放送解説者などをし、平成元年（一九八八）に亡くなりました。大窪神社（浜松市中央区大久保町）の狛犬には「昭和十年十二月大日本大角力大関天龍二郎寄進」と刻まれ、今でも天龍二郎の名を見ることが出来ます。

【参考文献】

山下和也「関西角力協会について」（『大阪歴史博物館共同研究成果報告書』二〇二〇年）
浜松市立中央図書館編『浜松が生んだ名力士 天龍二郎展』一九九二

竜が描かれた明治期の貨幣



1円銀貨(明治18年)

明治3(1870)年より、円・銭・厘を単位とする金貨・銀貨・銅貨が発行されました。明治期に発行された貨幣の中には竜が描かれているものがあります。

なぜ竜が採用されたのでしょうか。『造幣局八十年史』によると、政府が図柄を検討した時、外国人顧問団より西洋諸国の通例に倣い元首の肖像を採用するように提案を受けたが、天皇を現人神と考えられていたこともあり国情に反するものとして容認せず、代わりに皇室尊崇の念を高揚するのにふさわしい竜が採用されたとの記述があります。

さて、明治期の貨幣のサイズは、一番大きい1円銀貨でも約38mmでした。この狭いスペースに緻密な竜をデザインしたのは彫金師の加納夏雄です。政府は極印(貨幣の金型)を英国に発注するため、明治2(1869)年に加納へ見本貨幣の製作を命じました。見本を見た英国人技師は、これほどの名工がいるのにわざわざ英国へ発注する必要はないとその出来栄を賞賛しましたが、それでも政府は英国へ発注しました。

結局のところ、英国から納品された極印は見本よりはるかに稚拙なものであったため、加納の手により修正されて用いられることとなりました。こうして、加納とその門下生が明治期の貨幣の図案作成や彫刻を担っていくこととなりました。

催し物のご案内

★小展示「道具たちの100年」

開催中～5月19日(日)

小学校社会科「道具とくらしのうつりかわり」に合わせて、くらしの道具の変遷を紹介します。

★小展示「市民ミュージアム浜北巡回展」

5月23日(木)～9月23日(月・振休)

改修工事のため、2024年1月から休館している市民ミュージアム浜北(浜松市博物館分館)の所蔵資料を、浜松市博物館を皮切りに巡回展示します。

★GW 体験館

5月3日(金)～5月6日(月・振休)

- ・銅鏡風ミニ鏡づくり 5/3 当日予約制
- ・蜷塚の縄文ツアー 5/4 当日予約制
- ・まが玉づくり 5/5、6 当日予約制
- ・ガイドツアー 5/3、5、6
- ・缶バッジ、マグネットづくり 期間中毎日
- ・クイズラリー 期間中毎日

★火起こし体験

6月15日(土)

①9:30 ②10:15 ③11:00

各回10組まで

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

5月11日(土)、6月8日(土)

14:00から30分程度

場所: 蜷塚公園内旧高山家住宅

参加無料

事前申し込み不要



※各イベントの内容、定員、参加費などの詳細は、ホームページ、SNSでご確認ください。
※イベントは、変更、中止になる場合があります。

左から
ホームページ
X(旧ツイッター)
インスタグラム



浜松市博物館

開館時間: 9時～17時

4月～6月の休館日: 4/15,22,24,30 5/7,13,20,22,27 6/3,10,17,24,26

〒432-8018 浜松市中央区蜷塚四丁目22番1号

電話: 053-456-2208

FAX: 053-456-2275

Eメール: hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

HP: <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/>